

ETJP実験参加における
プライバシーに関する
注意喚起のためのメモ(案)

ETJP PandS Working Group

石田慶樹

ETJP実験に参加するにあたって

- DNSへの登録の必要性
 - ENUMを利用するアプリケーションはネームサーバに登録されたデータを検索し適切な動作を行います。
 - ENUMを利用するにあたってエンドユーザのデータをネームサーバに登録する必要があります。
 - エンドユーザのデータとはメールアドレスやSIPアドレスでありプライバシー情報ともなりえるものです。
- DNSへの登録による起こる作用
 - ネームサーバに登録することによりインターネット全体に情報が公開されることとなります。
 - 情報が公開されたことにより全世界からの本来の目的であるENUMによるアクセスが可能になります。
 - しかし公開された情報は本来の利用目的以外にも利用される可能性が非常に高いことも想定されています。

DNSへの登録による発生すると 想定されるリスク

- DNSに登録されたデータの目的外取得による不正利用
や利用妨害
 - 網羅的な探索による名簿やデータベース等の作成行為
 - 適切な利用者への検索を妨害する行為(DoS)
 - DNSの問い合わせや返答に対しての盗聴や偽造
- DNSに登録された情報を利用した迷惑な行為
 - いたずら電話
 - SPAM電話
 - ワンギリ
 - 勧誘電話
- DNSへのデータの不正な登録
 - 正当な登録の妨害やなりすまし

ETJPでのプライバシーの考え方

- ETJPで規定した方法により守れること
 - DNSの問い合わせや更新をDNSSECを利用すること、登録をSSLを利用してIDとパスワードを管理することにより、登録されたデータの完全性を保証するとともに、不正登録やなりすましを防止することが可能です。
- ETJPで規定した方法によっても守れないこと
 - 登録されたデータの不正利用および不当行為を防止することはできません。

ETJPでのプライバシーの懸念

- リスクを低減するために登録者が行うべきこと
 - ENUMを利用するにあたっては先に述べたリスクから完全に逃れる方法は今のところありません。
 - したがってENUMを利用するにあたっては登録するデータは法人や団体としてのみのデータを登録し、個々人のデータを登録するにあたっては慎重に行う必要があります。
 - このようなリスクが存在していることから、データを登録するにあたっては、登録する主体(個人・団体)においてリスクを認識した上での「オプトイン」に基づいたデータ登録を行う必要があります。